

Archive for 6 月 2023

ネパール憲法 AI 探訪(1): AI 先生に師事

このところ、AI の驚異的進歩に、ただただ圧倒されるばかり。いまや、たいていのことは、AI に尋ねれば、瞬時に答えてくれる。もし回答に誤りがあるとすれば、それは質問の仕方が悪かっただけ。ちゃんと質問すれば、AI はきちんと回答してくれる。

言葉の違いも問題ではない。AI 自動翻訳は実用上ほぼ支障はなく、世界中のどの国のことであっても日本語で AI に質問し、回答を得ることができる。

こうなると、教育・出版も激変せざるをえない。いまのままでは、学校も書籍も多くが不要となる。AI の方が、はるかに効率的に、知りたいことを教えてくれるからだ。これは大変、どうしたらよいのだろうか？

というわけで、以下では、「ネパール憲法」を具体的事例として取り上げ、AI 先生に思いつくまま質問し、教えを請うことにした。どうなるか先行きは全く不明――まさしく AI に先導されてのネパール憲法探訪だ。なお、AI 先生との質疑応答は、そのまま逐一記述すると煩瑣なので、直接引用は重要なものだけとする。

* 主に使用する AI: Bing, Bard, ChatGPT, Perplexity(いずれも無料版)

www.lawcommission.gov.np

नेपालको संविधान

नेपाल राजपत्रमा प्रकाशन मिति

२०७२।०६।०३

संशोधन

प्रमाणीकरण र प्रकाशन मिति

१. नेपालको संविधान (पहिलो संशोधन), २०७२

२०७२।११।१६

२. नेपालको संविधान (दोस्रो संशोधन), २०७७

२०७७।०३।०४

प्रस्तावना

हामी सार्वभौमसत्तासम्पन्न नेपाली जनता;

नेपालको स्वतन्त्रता, सार्वभौमिकता, भौगोलिक अखण्डता, राष्ट्रिय एकता, स्वाधीनता र स्वभिमानलाई अक्षुण्ण राखी जनताको सार्वभौम अधिकार, स्वायत्तता र स्वशासनको अधिकारलाई आत्मसात् गर्दै;

■ नेपाली संविधान

谷川昌幸(C)

2023/06/20 at 16:11

カテゴリー: [ネパール](#), [情報](#), [情報 IT](#), [憲法](#)

Tagged with [AI](#), [ネパール憲法](#)

生成 AI 問答(15): エッセイ「ネパールのビール」は、本当に、泣か

せるエッセイですか？

「ネパールのビール」は、中学校の課題図書として指定されるなど、日本ではよく知られたエッセイだ。このエッセイについて、本当に「泣かせる作品」なのかどうか、生成 AI に尋ねてみた。参照:[紹介:「ネパールのビール」](#)

Bing 回答は、アマゾン「カスタマーレビュー」の安直な要約。自分では読んでいないらしい。

Bard 回答も、自分では読んでいないようだが、回答それ自体は長文で、しかも3つ以上もある。以下では、最初の3回答だけ紹介。

Bard 回答①は、「ネパールのビール」は吉本隆明の1991年発表エッセイと断定。「隆明の独特な文体」とネパール人の「生き様を描いた文章」が読者を泣かせた、とのこと。あれあれ、本当かなあ？ 隆明にこんなエッセイがあったかしら？

Bard 回答②では、「ネパールのビール」の著者は小川一水。この作品は、ネパールでの著者自身のビール作りの感動的体験を語った泣けるエッセイだと、太鼓判を押している。自信满满だけど、本当かなあ？

Bard 回答③は、「ネパールのビール」の書誌には全く触れず、泣かせるかどうかは個人的感情なので自分で読んでください、と助言。全く答えになっていない。

以上が最初に表示される3つの Bard 回答。いやはや、スゴイ！ 人間なら、小学生でも、こんな相矛盾することを平気で、自信满满、しゃべり散らしたりはしないだろう。AI は、ウソでも相矛盾したことでも、まことしやかに、理路整然とした堂々たる文章で説明する。すごい、いやはやスゴイ！ 人間には到底、太刀打ちできない。

ChatGPT は、英語版なので、どうやら「ネパールのビール」は読んでいないらしい。が、読んでいなくても、「エッセイ」「泣かせる」といったキーワードから内容を推測したらしく、「自分で読んで」と、懇切丁寧に助言してくれる。やる気のない学校の先生よりも、はるかに頼りになる。

今回の問答では、やや意地悪な質問ということもあってか、文章生成 AI の弱点と、それが見抜けなかった場合の計り知れない危険性が、図らずも戯画的に露呈してしまった。AI にとって、「事実」か否か、「真実」か否か、は全くの関心外。質問文の中から選択可能なキーワードだけを選択し、蓄積された膨大なデータベースと照合、論理的に最も蓋然性の高い組合せを作成し、文法的にも誤りのない正確な文章に仕上げ、回答する。

これに対し、生成 AI 使用者は、そもそも知らないことを調べるために、AI を使用する。そのような質問者に対し、生成 AI は、関係ありそうな情報を集め、論理的に組み立て、自然な文章に仕立てて、即座に回答してくれる。それゆえ、よほど用心していなければ、質問者が AI 回答をそのまま受け容れることになるのは当然といわざるをえない。

生成 AI は、ウソでも真実であるかのごとく、明快かつ論理的に回答する。これは手強い。恐ろしい。これから先、いったい、どうなるのだろう……

***** <以下、生成 AI 回答> *****

Bing の回答

「ネパールのビール」は、泣けるエッセイとして有名です。このエッセイ集の標題になっている「ネパールのビール」は、何度読んでも泣けると言われています¹。吉田直哉さんが書いたこのエッセイは、ネパールで出会った少年との出来事を描いたもので、その少年の純粹さや誠実さに感動する人が多いようです。1: [Amazon.co.jp](https://www.amazon.co.jp)

Bard の回答①

エッセイ「ネパールのビール」は、作家の吉本隆明が 1991 年に発表したエッセイです。ネパールのビールと、そのビールを通して見えたネパールの人々の生活や文化を描いたエッセイです。

このエッセイは、吉本隆明の独特な文体と、ネパールの人々の生き様を描いた文章に多くの読者が共感し、感動を覚えました。そのため、このエッセイを読んだ後に泣いたという人も少なくありません。

ただし、エッセイ「ネパールのビール」が泣けるかどうかは、人それぞれです。このエッセイの文章に共感できるかどうか、ネパールの人々の生き様に感動できるかどうかは、人によって異なります。そのため、必ずしもこのエッセイを読んだ後に泣く人がいるとは限りません。

もし、エッセイ「ネパールのビール」を読みたいと思っているのであれば、一度読んでみることをおすすめします。このエッセイが泣けるかどうかは、読んだ人次第です。

Bard の回答②

エッセイ「ネパールのビール」は、泣かせるエッセイだと思います。このエッセイでは、著者の小川一水さんが、ネパールでのビール作りの体験を語っています。ネパールは、山に囲まれた小さな国で、ビール作りの文化はあまり発達していません。しかし、著者は、ネパールの人々が、少ない物資を使って、一生懸命ビールを作っていることに感動しました。また、ネパールの人々が、ビールを通して、喜びや悲しみを分かち合っていることにも感動しました。このエッセイを読むと、ネパールの人々の優しさや、ビール作りの楽しさを感じることができます。そして、人生の喜びや悲しみについて、考えさせられるエッセイだと思います。

このエッセイを読んだ人の中には、泣いた人もいます。それは、このエッセイが、ネパールの人々の優しさや、ビール作りの楽しさ、そして、人生の喜びや悲しみを、とてもよく伝えているからです。もし、あなたが、泣けるエッセイを読みたいと思っているなら、このエッセイを読んでみることをおすすめします。

Bard の回答③

エッセイ「ネパールのビール」は、ネパールの首都カトマンズでビールを飲んだ著者の体験を綴ったエッ

セイです。著者は、ネパールのビールがとてもおいしく、その味に故郷を思い出したと言います。また、ネパールの人々の温かさにも触れ、ネパールの魅力を語っています。

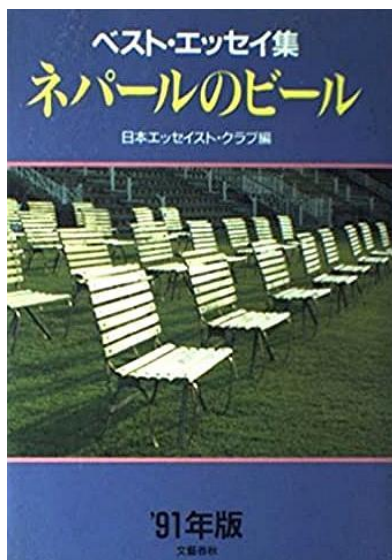
このエッセイを読んだ人の中には何人か、涙を流した人もいたようです。それは、エッセイが著者の故郷への郷愁やネパールの人々の温かさを描いているからでしょう。

もちろん、このエッセイがすべての人に泣かせるわけではありません。しかし、ネパールのビールが好きな人や、ネパールに興味のある人なら、きっとこのエッセイから何かを感じることができるはずです。

ChatGPT の回答 (日英 Google 翻訳)

AI 言語モデルとして、私は個人的な感情や主観的な経験を持つことができないので、エッセイ「ネパールのビール」が誰かを泣かせるかどうかを確認することはできません。文章に対する感情的な反応は、個人の視点、経験、感受性に基づいて人によって異なります。エッセイの中には、特定の人に強い感情を呼び起こすものもありますが、同じ効果を持たないものもあります。このエッセイに興味がある場合は、自分で読んで、それが個人的にどのように響くかを確認することをお勧めします。

***** <以上, 生成 AI 回答> *****



谷川昌幸(C)

2023/06/16 at 15:15

カテゴリ: [言語](#), [情報](#), [情報 IT](#), [教育](#), [文化](#)

Tagged with [AI](#), [生成 AI](#), [真実](#), [虚偽](#), [事実](#)

生成 AI 問答(14): AI 弁護士は人間弁護士よりも裁判に勝つ確率が

高いですか？

将棋では、つい先日、将棋「学生名人戦」(6月4日)で優勝した学生が、対局中に「将棋 AI」をスマホで使用していたとして、失格となった。図らずも、皮肉にも、AI 棋士の方が人間棋士よりも強いことが、またしても実証されてしまった。

裁判も将棋同様、いわばルールに従って勝敗を決する「ゲーム」であり、同じことが言えるのではないか？ だとすれば、AI 弁護士の方が人間弁護士よりも有能となるのではないか？ AI 自身に尋ねてみた。

Bing 回答は、AI 弁護士はまだ発展途上としつつも、すでに人間弁護士よりも有能な分野がいくつかあることを認めている。AI 弁護士のさらなる活動範囲拡大を予想。

Bard 回答は、Bing 回答よりも、AI 弁護士の可能性を大きく評価。バランスの取れた、よい回答。

ChatGPT 回答は、無料版ではデータが 2021 年 9 月までのためか、AI 弁護士の能力を Bard 回答よりも低く評価。資料データが更新されれば、評価が変わる可能性大。

***** <以下, 生成 AI 回答> *****

Bing の回答(質問回答=日本語)

AI 弁護士と人間弁護士の勝率については、まだ十分なデータがないため、一概にどちらが勝つかは言えません。ただし、AI 弁護士は、大量の判例データを瞬時に分析することができるため、人間弁護士よりも効率的に訴訟戦略を立てることができるかとされています(1)。また、AI 弁護士は、人間の感情や経験に左右されず、客観的な判断を下すことができるため、人間弁護士よりも正確な判断を下すことができる場合もあります(2)。

しかしながら、AI 弁護士はまだ発展途上の技術であり、人間弁護士にはない人間的な判断力や洞察力を持っている場合もあります。また、AI 弁護士は法律の解釈や適用に限界があるため、複雑な法律問題に対応することができない場合もあります(3)。

以上のように、AI 弁護士と人間弁護士はそれぞれ得意分野があります。今後も AI 技術の発展に伴い、AI 弁護士の活用範囲が広がっていくことが予想されます。(1) [AI の弁護士業務への影響「活用は止まらない」「人にしかでき ……」](#) (2) [弁護士は人工知能\(AI\)に取って代わられるか？ - 宮野 勉 | 論座](#) (3) [AI は弁護士の仕事を奪うのか？【弁護士事務所と契約した AI も](#)

Bard の回答(質問回答=日本語)

AI 弁護士は、膨大な量の法律情報にアクセスして分析し、最善の弁護戦略を立案することができます。また、人間の弁護士よりも、感情に左右されずに客観的に状況を判断することができます。そのため、AI 弁護士が有利なケースもあるでしょう。

しかし、AI 弁護士はまだ開発途上にあり、人間の弁護士のように、複雑な状況を理解したり、柔軟な弁護戦略を立案したりすることができません。そのため、AI 弁護士が不利なケースもあるでしょう。

最終的に、AI 弁護士が人間弁護士よりも裁判に勝つ確率が高いかどうかは、ケースの難易度や、弁護士のスキルや経験など、さまざまな要因によって決まります。

AI 弁護士が人間弁護士よりも裁判に勝つ確率が高いかどうかは、まだ議論の余地がある問題です。しかし、AI 弁護士は今後も進歩していくと予想されることから、AI 弁護士が人間弁護士よりも裁判に勝つ確率が高くなる可能性は十分にあるでしょう。

ChatGPT の回答(質問回答=DeepL 翻訳英語)

人間の弁護士と比較した AI 弁護士の勝訴効果は、継続的な議論と研究のテーマである。重要なのは、少なくとも私の知識の切り口である 2021 年 9 月時点では、AI 弁護士はまだ人間の弁護士に完全に取って代わるほど進歩していないことです。しかし、AI 技術は、大量の法的データの分析、パターンの特定、法的調査サポートの提供など、さまざまな方法で弁護士を支援することができます。

AI 弁護士は、ある種の利点を提供する可能性を持っています。膨大な量の法律情報を迅速に処理できるため、人間よりも効率的に広範な調査を行い、関連する判例を見つけることができます。また、AI アルゴリズムは、人間の弁護士が見落としがちな法的データのパターンを検出ことができ、法的な議論を構築するための新しい洞察や戦略を提供する可能性があります。

一方、人間の弁護士は、現在のところ AI が完全に再現できない独自のスキルを持っています。人間の弁護士は、豊富な経験、批判的思考能力、創造性、そして共感能力と感情的知性を持ち、これらはしばしば法的問題において極めて重要です。人間の弁護士は、事件のニュアンスを理解し、クライアントと関係を築き、効果的に交渉し、裁判官や陪審員に対して説得力のある主張をすることができます。

最終的に、訴訟事件の結果は、事件の複雑さ、弁護の質、入手可能な証拠、裁判官の見解、法律の解釈など、さまざまな要因に左右されます。AI は弁護士を支援し、その能力を高めることができますが、意思決定権は依然として、人間の弁護士が提示した議論を評価する裁判官や陪審員にあります。

AI 技術の進歩に伴い、法曹界における AI の役割も進化していく可能性があります。将来、AI システムがより洗練され、特定の法律業務を自律的に処理できるようになる可能性は十分にあります。しかし、法曹界には複雑な人間関係、倫理的配慮、主観的判断が伴うため、AI 弁護士が人間の弁護士よりも本質的に勝訴しやすいかどうかを予測することは困難である。

***** <以上, 生成 AI 回答> *****

【参照】野口 悠紀雄「生成 AI で弁護士が「奪われる」仕事の具体的な内容:「弁護士がいらない社会」がついにやってくる」東洋経済オンライン 2023/08/20



■AI 弁護士, 続々登場(Google)

谷川昌幸(C)

2023/06/07 at 18:33

カテゴリ: [司法](#), [情報](#), [情報 IT](#), [文化](#)

Tagged with [AI](#), [生成 AI](#), [弁護士](#)

生成 AI 問答(13): AI は, AI 裁判官として裁判を行い, 判決を下すこ

とができますか？

裁判は, AI が最も得意とする分野の一つと思われる。裁判では, 原告と被告が, それぞれの訴えを裏付ける“事実”を最大限提出し, 裁判所の判断を求める。換言すれば, 争われている様々な“事実”のうちのいくつかを証拠により法的に認定し, その認定された「事実」に対し, 過去の判例を参考にしつつ法令を解釈して適用し, 判決を下すこと。

この裁判における事実認定や法令の解釈・適用は, 多くの要因が複雑に絡む困難な作業であり, 人間が行うと, とんでもない手間と時間がかかる。民事でも刑事でも, 数十年以上かかることさえある。原告にとっても被告にとっても, 国家など公法人を除けば, 耐え難い負担だ。

そこで, AI 裁判官の登場。無数の情報から「事実」を選び出し, 膨大な法令や判例と照らし合わせ, 最適の解＝判決を導き出す。AI の最も得意とするところだ。

AI は, 当初は人間裁判官の助手として採用されるだろうが, しばらくすると自立し, 人間裁判官の監督なしに人間を裁くようになるにちがいない。AI は裁判を合理化し, **人を見ることなく事実**にのみ基づき, 公平無比の科学的な判決を, 瞬時に下す！

本当に, そうか？ AI 自身に尋ねてみた。

Bing 回答は, 少しずつ文章が表示されるようになった。まるで考え考えしながら, 回答しているよう。親しみが持てる。日本の現状を説明し, 典拠も表示。が, やはり情報不足。

Bard 回答は, 瞬時に明快そのもの。AI 裁判への移行を確信している。説得力あり！

ChatGPT 回答は、無料版では 2021 年までの情報に依拠しており、やや古い。そのためか、AI 裁判実現の可能性をかなり低く見ている。収集情報を現在まで拡大すると、ChatGPT も Bard と同様の回答を出す可能性は大。

このように、AI 自身も多かれ少なかれ認めているように、AI は裁判とは相性が良い。これから先、裁判は加速度的に AI に移行されて行き、結局は AI 裁判に人間が服することになってしまうのではないかと、それが人間にとって幸か不幸かは、いまのところ不明。

***** <以下、生成 AI 回答> *****

Bing の回答 (質問回答 = 日本語)

日本では、AI 裁判官が裁判を行い、判決を下すことはできません。しかし、AI による裁判手続きに関する議論は巻き起こっており、AI による裁判手続きが公正かどうかについての議論が進んでいます 3。2023 年 5 月には、東京大学法科大学院で「ChatGPT」を使った模擬裁判のイベントが開催され、AI 裁判官が判決を下しました 2。

(1) [AI による裁判は公正か 導入への動きは進むのか](#) (2) [「ChatGPT」で模擬裁判のイベント](#) (3) [ChatGPT が裁判官？AI に裁かれる未来、受け入れられますか](#)

Bard の回答 (質問回答 = 日本語)

はい、AI は AI 裁判官として裁判を行い、判決を下すことができます。AI は、膨大な量の法律データや判例を学習し、人間よりも正確に法律を解釈することができます。また、AI は人間よりも偏見なく、公正に裁判を行うことができます。そのため、AI 裁判官は、人間の裁判官よりも公正で効率的な裁判を行うことができると期待されています。

しかし、AI 裁判官には、まだ課題もあります。AI は、人間と同じように、法律の解釈や判決を説明することができません。そのため、AI 裁判官の判決が、人間に納得してもらえない可能性があります。また、AI 裁判官は、人間の裁判官よりも、ハッキングやサイバー攻撃のリスクが高いです。

これらの課題を克服するためには、AI の技術をさらに開発し、AI 裁判官の安全性を高める必要があります。また、AI 裁判官の判決を、人間に納得してもらえるように、AI 裁判官の説明能力を向上させる必要があります。

AI 裁判官は、まだ開発途上ですが、将来的には、人間の裁判官を補完し、より公正で効率的な裁判を行うことができると期待されています。

ChatGPT の回答 (質問回答 = DeepL 翻訳英語)

2021 年 9 月に私の知識が遮断された時点では、裁判を実施したり、AI 裁判官として判決を下したりするために AI システムは一般的に使用されていません。AI はデータ分析、法的調査、事件管理を行うことで人間の裁判官を支援する役割を果たすことができますが、法的問題における意思決定プロセスは依然として人間の判断と法律の解釈に大きく依存しています。

法制度には、現在の AI テクノロジーの能力を超える複雑な考慮事項が含まれています。法的手続きでは、人間の行動、感情、状況の微妙な違いを理解する必要があることがよくありますが、AI システムがこれらを正確に理解するのは困難です。さらに、法的判断には人間の推論と価値観を必要とする倫理的および道徳的考慮が含まれることがよくあります。

ただし、テクノロジーは常に進化しており、法律分野での AI 応用は急速に進歩していることに注意することが重要です。将来的には、AI システムが法的手続きにおいてより重要な役割を果たす可能性があると考えられます。それにもかかわらず、裁判官として AI を採用するには、透明性、説明責任、偏見、公平性に関する懸念に対処するとともに、法的、倫理的、社会的影響を慎重に検討する必要があります。

***** <以上, 生成 AI 回答> *****



■ [人工知能法学の全貌 / AI の裁判への導入は「期待」と「不安」と / AI が判決の理由を推論する / AI は司法試験をどこまで解けるのか / AI をめぐる法制度のあり方 / 他](#)

谷川昌幸(C)

2023/06/05 at 17:20

カテゴリ: [司法](#), [情報](#), [情報 IT](#)

Tagged with [AI](#), [生成 AI](#), [裁判](#)

『週刊朝日』の「学歴」信仰と「休刊」名目の廃刊

日本最古の歴史を誇る『週刊朝日』が、6月9日号をもって「休刊」となった。「休刊」の最大の理由は、デジタル情報化による部数減。たしかに、表向き、それはそうなのだが、実際には、「休刊」には、そのような外在的理由だけでなく、見方によれば、それよりもはるかに深刻な内在的理由もあったのではないかと思われる。

最終号の特集「週刊朝日とわたし」への寄稿で、落合恵子も、こう指摘し、心配している。「週刊朝日の(かつての)発行元・朝日新聞がジャーナリズムの先端に立つ気骨や気概が希薄になってはいないか。権威におもねるようになってはいないか。忖度が多すぎて、書くべきときに書かなくなっていないか。」

朝日が「ジャーナリズムの先端に立つ気品や気概が希薄」になり俗悪なセンセーショナルリズムに墮した典型例が、『週刊朝日』(2012年10月26日)掲載の「ハシシタ 奴の本性」。これについては、これまで何回か批判した。参照：[朝日と佐野氏の優生思想:「ハシシタ 奴の本性」の危険性](#) / [ゴシップで売る朝日と佐野眞一氏の名前](#) / [佐野氏の執筆責任放棄と朝日の表紙かくし](#) / [肉体文学としての「ハシシタ 奴の本性」](#) / [朝日の変調と変節](#)

朝日には、こうした俗悪センセーショナルリズムに加え、「権威におもねる」ところも、多々みられる。たとえば、権威の権威たる皇室の利用。最終号にも、「表紙で見る『ご成婚』から『御代替わり』まで 上皇陛下との奇跡の歩み、やさしさと“キュートさ”」という記事が掲載されている。皇室におもね、読者に媚びる下心が見え見えだ。

そして、もう一つ。これは誰もあえて指摘はしていないと思うが、明々白々な「権威」としての「高学歴」への「おもねり」。この「おもねり」は、「学歴」信仰を煽り販売部数を増やすという卑俗な打算と密接不可分に結びついている。「学歴」信仰を煽れば煽るほど、**高学歴が売りの朝日の出版物は売れる**というわけだ。

朝日は、「学歴」信仰に雁字搦めの骨絡み。そうでなければ、よりにもよって最終号に**43頁もの大スペース**を割き、「大学合格者高校ランキング」を掲載したりはしないだろう。デジタル情報化のいま、貴重な紙を浪費し、こんなくだらない記事を、なぜ印刷するのか？ 学歴信仰どころか、学歴迷信に囚われてしまっていると思えない。

しかも、こんな自慢さえしている—

「2023年入試が終わり、各大学の結果が出そろった。……本誌恒例の大学合格者高校ランキングの大トリを飾るのは、国公立全179大学の合格者一覧。」

しかも、これで終わらないのが、朝日の朝日たるゆえん—

「ただ、一人でも多く国公立大学の合格者を出すため、生徒の受験校選びに介入する高校もあるという。学力に応じた指導といえればそれまでだが、生徒の意欲を高める取り組みといえるだろうか。」

あれあれ、販売促進のため「学歴」信仰を煽りまくり、生徒の受験校選びに巧妙にして大規模に介入してきたのは、他ならぬ朝日ではなかったのか。

そんな自省すらないのであれば、「休刊」という名の「廃刊」もやむを得ないだろう。



■「大学特集一挙 43

ページ」(朝日新聞 2023/05/30)

谷川昌幸(C)

2023/06/04 at 10:34

カテゴリー: [情報 IT](#), [教育](#), [文化](#), [本](#)

Tagged with [皇室](#), [受験](#), [学歴](#), [朝日新聞](#), [権威](#)